



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)円山宮ヶ丘計画新築工事	階数	地上9階
建設地	札幌市中央区宮ヶ丘2丁目434番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	257 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,683 m ²	評価の実施日	2021年8月24日
建築面積	2,088 m ²	作成者	西松建設㈱
延床面積	10,145 m ²	確認日	
		確認者	

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★ **B+**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 63%

③上記+②以外のオンサイト手法 63%

④上記+オフサイト手法 63%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEE][BEIm]= **0.65**

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合 敷地内に可能な限り緑化を行うことで良好な市街地の形成を目指した。 住戸内部については、外窓を遮音性の高いサッシと内部樹脂窓の2重サッシを採用することで高い断熱性能と遮音性能もT-4を確保し、プライバシー保護や快適な住環境を目指した。		A 省エネルギー 温熱環境については、住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たすことにより省エネルギーに配慮した計画としている。
B 省資源等 水資源保護については、積極的に節水器具を使用し、節水を図った。	C 緑化 敷地内に緑化をできるだけ確保することによりヒートアイランド対策に配慮した計画としている。また、歩道沿いに緑化を配置して、周辺環境の景観にも配慮した。 光害抑制については、屋外に広告物照明を設置しない計画とした。	D 雪処理 敷地内の主要な通路及び車路にはロードヒーティングを敷設し、パラペットの立上り部分にも雪庇金物や融雪ヒーターを設置している。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
 (仮称)円山官舎計画新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居-宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1		外窓(単板ガラス5mm)+内部樹脂窓(複層ガラス3+A12+3)にてT-4の性能を確保	5.0	1.00	5.0	0.30		
2			-	-	3.0	0.30		
3			-	-	3.0	0.20		
4			-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1			3.0	0.63	-	-		
2	省エネ	断熱等級4	1.0	0.38	4.0	1.00		
3			-	-	-	-		
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1		補足資料参照	5.0	0.60	3.0	0.50		
2			-	-	1.0	0.30		
3	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策								
1	省エネ	庇とカーテンボックス設置により2種類にて制御可能	2.0	1.00	4.0	1.00		
2			-	-	-	-		
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1		全て☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気								
1			3.0	0.50	3.0	0.33		
2			-	-	3.0	0.33		
3			1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理								
1			-	-	-	-		
2			-	-	-	-		

Q2 サービス性能			0.30	-	-	3.2	
1 機能性			3.1	0.40	4.0	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	光回線(1GB)、各住戸へ引込み		-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	居室のCH2520		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	リフター置き場を設け、高所のメンテナンスを行えるようにしている。(1階平面図参照)	3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃用具庫を設置/ゴミ置場内に1階:地流し、2~8階:SKを設置/札幌市の基準以上の廃棄物スペースを確保・搬出用カートを配置/屋外・共用部に電源設置/高所作業用のリフターを常設/排水トラップ・バルブは隠蔽しない/共用部の設備は共用部の点検口で調整・管理	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	住宅品質確保促進法の劣化対策等級3を確保	5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	3.2	0.50	
1 階高のゆとり		FH2920・2970		-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	断熱等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.65	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		シングルレバー混合水栓、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-		
1	消火剤	省資源	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	3.0	0.50	-	-		
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1	地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルコストCO2排出率に基づくスコア換算=4.4		4.4	0.33	-	4.4
2	地域環境への配慮		2.6	0.33	-	-	2.6	
2.1	大気汚染防止	省資源	3.0	0.25	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱処理	2.0	0.50	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	省資源	3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		住戸数以上の駐輪置場の確保、荷捌き兼来客用駐車場1台を確保		5.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 電処理	3.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制			-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.2	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)円山宮ヶ丘計画新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	10,145.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★☆☆☆	
	緑化	★★☆☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 7.4)				合計		17.7点 /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	0.3 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2 /4.0		
Q1 光・視環境	スコア	1.0 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8 /2.0		
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0		
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計		13.6点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.3 /9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.9		
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.4 /5.0		
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1 /4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		6.4点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3					
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数